

ピックアップインタビュー 第2弾！

ハンガリー乳幼児教育を研究し日本へ紹介しているサライ美奈さんです。

サライ 美奈（さらいみな）
神奈川県出身。



保育士養成短大卒業後、
1989年にハンガリーへ留学
(元国立教育研究所付属保育園、その他数園にて学ぶ)
帰国後、保育士として働く。1995年よりハンガリー在住。
家族は夫と子ども3人

日本にハンガリーの乳幼児教育を紹介する「くるみの木 教育研究所」主宰
編集長) ハンガリーに来たきっかけは？

サライ) 短大在学中に、東京のコダーイ芸術教育研究所の羽仁協子さんより声がかかり、
興味があったので来ることにしました。

編) 首都ではなく地方都市にお住まいとの事ですが、長年住まれていて感じることはありますか。
ハンガリーの海バラトン湖付近に住まわられていて、とても環境が良いイメージがあり首都在住の
私などには羨ましく思う点もありますが。

サ) 本当のハンガリーは田舎にある！ということでしょうか。
人と人の距離が近いですし、自然ですね。自然に囲まれているせいか、都市部と比べても人が
穏やかですし、住みやすいです。

編) 現在、乳児・幼児保育などに携わっていらっしゃいますが、
例えばハンガリーと日本の保育教育や環境などの大きな違いはなんでしょうか。

サ) 乳幼児の教育機関に（つまりは、国に）、「子どもの人格を育てる」という意識があるかないかが
最も大きいと思います。子どもが心身ともによりよく育てるための、最低限の条件がしっかりと決められ
ているのがハンガリーの保育制度ですが、

日本には保育指針や監査制度などはあっても、本当に子どもの発達の視点から大切な最低ラインが設定さ
れていません。また、ハンガリーのほうが、教育を考えた時の視野が広く深いですね。

編) 両国の教育に対して参考にするべきだとおもう点・見直すべきだとおもう点など感じた事はなんでしょうか。

サ) 乳幼児と学童とでは、また違うので、一概には言えませんが、子どもの個性をいかに尊重し、
発達に働きかけていくかという点では、日本はハンガリーから多くのことが学べると思います。
教育の根底にヒューマニティーが流れているのはハンガリーの教育全体で感じられることですが、
子どもが高学年の後半ぐらいになった時の教育（規律の面など）では、日本からも学べる点がある
のではと思うことがあります。

編) 日本から幼児教育の研修場所としてハンガリーを選択される方々も居ますが、何を取得して
日本で実際に役立てて欲しい・広めて欲しいと思いますか。

サ) 世界中の子どもに共通していることは、基本的な発達の流れ以外に、「安心できる環境で過ごせる時に、
もっとも発達できる」ということと、「子どもの一番の活動は遊びである」ということです。そのための、
最も基本的な保育の部分を、学んでほしいと思っています。基本を理解できなければ、応用はでき
ませんから。

編) 私自体も実際にサライさんの研修を見させていただいたと思うのですが、一方通行にならないように意見交換をしていたりと、とても適切な言葉を使って、分かりやすく説明されている印象がありました。言葉で伝える事に関して何か心がけている事はありますか。

サ) 教育は、教育者が自分自身を通してしか行えないことです。ですから、常に、自分自身がどういった人間なのか、自分は世界や人間をどう見ているのか、何を求めて保育と関わっているのか、どういった人間を育てたいのか、それはどうしてか…といったことを、自らに問いかけながら学んでいってほしいと思っています。それなしに、見たことだけを真似しても、本当の意味での教育にはなりません。もうひとつは、出発点は常にその人なので、1人1人が必要としていることを伝えていこう…と、コミュニケーションをとりながらの学びの場を心がけています。

編) 現在もそうですが、これからの乳児・幼児教育を、どう見えていますか。
どのような方向性が大切だと思いますか。

サ) いつの時代でも、子どもにとって最も大切なのは「自分は大切な存在なのだ」と感じられることです。乳幼児期に、自分に対する基本的な肯定的な価値観を育てることができれば、人生の中でいろいろあっても、乗り越えていけるように思います。その視点から出発すれば、保育の方向性も、おのずと見えてくるように思います。

編) 今後の夢などありますか？

サ) 今は、日本の保育士養成短大を何とかしたいというのが、今一番の思いです。待機児童対策で、保育園がどんどん増え、どんな人でも保育園で働けるのが日本の現状です。基礎知識のない保育士さんも苦勞しますし、もちろん、子どもたちはもっと苦勞します。

この20年間、毎年、日本の保育園も見続けていますが、保育士の質の低下は深刻だと思います。

人間の基礎を育てるはずの乳幼児期が、一番雑に考えられているのが日本の現状です。

「自分は大切な存在なのだ」と感じながら育っていく子どもたちが増えていくことが、長い目で見た時に、日本の様々な問題の解決につながっていくのではないかと思っているのですが。

※編集長の一言……

ちょっと前にお会いしたのにも関わらず、直接インタビューをさせていただく事を忘れてしまいまして、今回改めてメールインタビュー形式で答えていただきました。サライさんは、周りを温かく包み込んでくれるような方。教育のスタート地点とも言われる・乳児・幼児保育に携わっている方だからなのかと思いましたが、それだけではなく彼女の魅力が、そうさせるわけですね。 次回はどなたへ??